

室戸海洋深層水は、やっぱり凄い水だった

～高知大学医学部との3年間にわたる臨床試験の成果に関する報告～

○リード文

- ・高知県は、高知大学医学部と3年にわたって臨床試験を行い、日本で初めてとなる『室戸海洋深層水』由来飲料水の長期飲用による腸内環境への影響に関する研究成果を発表しました。
- ・具体的な研究成果として、深層水とミネラルウォーターを比較したところ、ヒトの健康と密接に関わる効果があると言われている「短鎖脂肪酸」の産生量の変化に23%もの差があり、且つ、健康や美容に欠かせない「エクオール」の変化量が1.6倍増加することが判りました。
- ・本研究は、高知県が平成26年度に採択を受けた、厚生労働省の「戦略産業雇用創造プロジェクト」による取り組みの一つで、県をはじめ、高知大学医学部・室戸市・高知海洋深層水企業クラブ・室戸市民など“オール高知の旗のもと、産学官民で連携”して取り組んできました。
- ・高知県は本事業を通して、室戸海洋深層水の更なる利活用の促進と、室戸海洋深層水由来飲料水の飲用による“生活の質”向上を提案します。

※今回の臨床試験で使用した海洋深層水とは、原水ではなく、室戸海洋深層水由来飲料水（硬度1000）のこと。

○検証方法

室戸海洋深層水の飲用継続により、人の腸内環境はどのように変化するのか。日本で初めて海洋深層水の取水が行われた、高知県室戸市で、市民の協力を得て実際に検証してみました。室戸市民95人をランダムに、深層水を飲むA群（49人）とミネラルウォーターを飲むB群（46人）に分割し、3ヶ月間の飲用試験を行いました。もちろん、試験に協力いただいた方には、深層水とミネラルウォーターのどちらを飲んでいるか分からない様にしています。

○驚きの結果が！

このデータをもとに2群間の比較解析を行ったところ、ミネラルウォーターを飲用したB群と比較して、深層水飲料を飲用したA群ではヒトの健康と密接に関わる効果があると言われている「短鎖脂肪酸」の産生量の変化に23%もの差があり、且つ健康や美容に欠かせない「エクオール」の変化量は1.6倍増加していることが判りました。